

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 多摩市立多摩第一小学校  
 種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )  
 住所 〒206-0011  
東京都多摩市関戸3-2-23  
 E-mail : kinoshita-kazunori@city.tama.tokyo.jp  
 Website : http://schit.net/tama/estamadaiichi  
 児童生徒数：男子 384 名 女子 367 名 合計 751 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

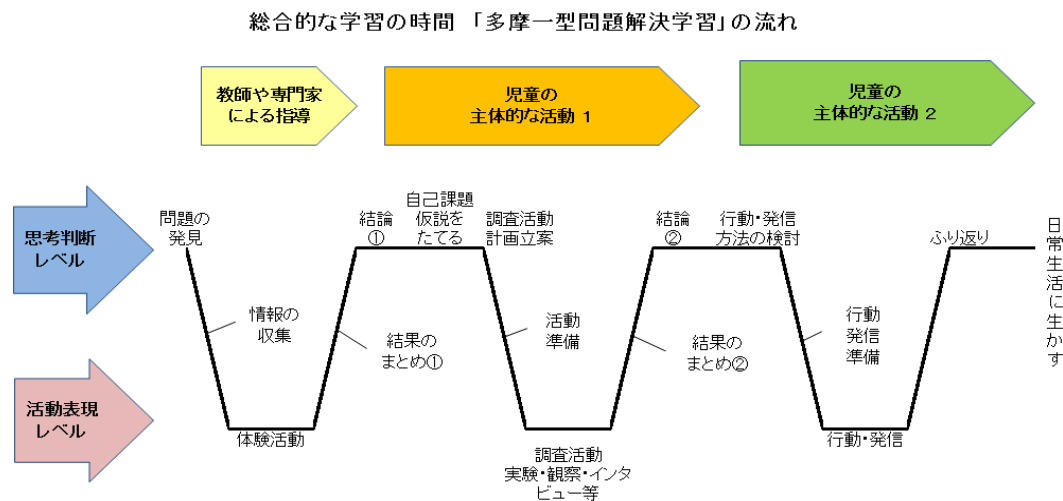
- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

#### 4. 活動内容

今年度は、国立教育政策研究所教育課程研究指定校として、ESD をテーマに2年目の研究を行った。

##### (1) 本校のとらえる問題解決力と指導方法

本校では、ESD で育む能力・態度を問題解決力と取り組み意欲、協力の三点とした。問題解決力はさらに①課題を見つける力②計画を立てる力③調べる力・実施する力④結果をまとめる力⑤発信・行動する力に分けた。指導方法は下図にある「多摩一型問題解決学習の流れ」に沿った問題解決学習を指導し、児童に主体的に繰り返し取り組ませる。この学習活動を、発達段階に応じて6年間繰り返すことで問題解決力を育てる。



##### (2) 評価の工夫

ESD や問題解決力の評価では、能力・態度の向上を見取るための評価方法を工夫した。問題解決力を課題を見つける力、計画する力、調べる力、まとめる力、発信行動する力に分けて評価した。

- ① 毎回の活動後に、振り返りカードに活動内容と気づいたことを記録する。
- ② 単元活動の前後で意識調査を行ったり、イメージマップを書かせたりする。課題を見つける力や知識、事象の関係性への理解も評価する。(右図)
- ③ ポートフォリオを使った評価は、活動で使ったプリントや資料、絵や作品から児童の変容を評価する。計画、調査の実施、まとめ、発信の評価に有効であった。また、学習者自身にとっても活動を振り返らせ、内容への理解を深める上で有効であった。

##### (3) 研究の成果

成果として児童の変容と教師の指導力の向上がある。ポートフォリオ等の評価から、児童の思考力の向上、クリティカルな話し合い活動、表現のうち特に発信の工夫、協力する意識などの変化が、学年が上がるほど高くなった。このことから、多摩一型問題解決学習の流れに沿った学びを繰り返すことによって、研究でねらいとする能力・態度の向上が図られた。また、児童の意識調査の合計(右グラフ)を見ると、児童も思考したり表現したりすることが得意になると感じていることが分かり、自己肯定感が高まったことが確認できた。

教師の変容として、問題解決学習の指導方法の習得と共に、教科学習での問

題解決学習・活用型学習の指導が充実した。探究学習を充実させるためには、教科の活用型指導と総合的な学習の時間との横断的指導が重要であった。

#### (4) 1年間の主な活動内容

##### 第1学年 あそんでふれて、しぜんはっけん (40 時間)

生活科で自然体験遊びやネイチャーゲームによって、自然と関わらせ、豊富な自然体験によって、身近な自然環境への関心をもたせた。草笛、ササ舟といった昔遊びに加えて、ビンゴゲーム形式の自然発見ゲームや虫めがねを使って草むらの根元を探検するなど、多様な体験をさせた。サツマイモの栽培を通して、土づくりを行い、植物の生育を見守る体験も行った。

##### 第2学年 わくわく自然体験 (45 時間)

生活科の時間にネイチャーゲームによる豊かな自然体験とともに、多摩川探検を通して身近な地域学習への関心を高める。浅瀬のガサガサ体験でハヤやカワエビなどの小動物を採集したり、野草の押花を楽しんだりする。川の水に浮んで流れる体験もした。

##### 第3学年 地域の達人になろう (60 時間)

総合的な学習の時間を中心に、多摩川と友だちと題して、手作りいかだで川くだりを行う。また、地域の自然、商店、公共施設、農業の見学や調査を行い、地図上にまとめて発表を行う。農家や商店を訪ねてインタビューによる調査方法を体験したり、デジカメを使った記録方法や、ポスターセッションによる発表を行うことで、調査方法や発表方法の基礎を学ぶ。また、和太鼓を打つ体験や、地域に伝わるお囃子を実際に踊る体験することを通して地域理解を深め、「地域の達人」をめざす。



##### 第4学年 めざせ多摩川の博士 (45 時間)

総合的な学習の時間を中心に、多摩川をテーマに調査を行った。まず、川の調べ方を外部講師に教えてもらうために、川と河原の植物、魚、石、野鳥、ゴミ、水質のテーマごとに話を聞き、水質調査などの体験活動を行った

次に、テーマごとのグループをつくり、調査結果の予想、調査方法を話し合い、計画書にまとめた上で、実地調査を行い、結果をまとめた。さらに、学年内で発表会の後に、インターネットのテレビ会議を活用して、上・中・下流の学校で、学んだことや川の様子などを交流で発表し合った。最後に活動をふり返り、活動の良かった所や改善点を出し合った。



### 第5学年 みつめよう私たちの生活と環境 (40 時間)

総合的な学習の時間を中心に、地域の農家の方に指導していただき、校内の田んぼでの稲作体験をする。田植えから除草、稲刈り、脱穀などを手作業で行い、米を作る楽しさとともに作業をした。収穫した米は、6カ国の留学生から世界の米料理を教えてもらい、食を通して国際理解を図り、6年生の学習につなげた。また、米や稲作をキーワードに他校に発信した。発信の工夫は4年生の経験を生かし、子供が発信内容を工夫した。

### 第6学年 エネルギーを通して世界を知ろう (25 時間)

理科の電気や発電の学習をきっかけに、総合的な学習の時間を中心に、エネルギーについて学ぶ。様々な発電方法を調べて発表し、実際に生活や社会を支えている発電について関心をもつ。次に、風力発電機を自作することで、発電の大変さや大規模な施設が必要なことを理解し、生活の中で節電することの大切さを知る。さらに、自然エネルギーを身近に感じさせた。スウェーデンの小学校との交流でもエネルギーについて取り上げ、日本や世界のエネルギー問題の未来について考えさせた。

(5) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を中心を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ( )